

ブラジルレアルの現状と今後の見通し

2015年8月11日

<ブラジル・レアルの現状>

レアルの対円レートは、ブラジルのファンダメンタルズの悪化(中央銀行目標値を上回るインフレ率、景気見通しの下方修正、基礎的財政収支黒字目標値の下方修正)などを背景に、1レアル35円台へ下落し、リーマン・ショック後の安値を更新しました。また大手石油会社をめぐる汚職捜査が政界へ波及し、前政権時の官房長官が逮捕されるなど政局に不透明感が台頭してきています。最新の世論調査結果では、ルセフ大統領の支持率が8%へ落ち込んだほか、連立与党内でも同大統領の求心力が低下しています。

レアルが下落している背景にはブラジル国内要因のほかにも、FRB(米国連邦準備制度理事会)が金融政策の正常化に取り組んでいること、中国経済の不透明感、コモディティ(商品)市場が下落していることも影響していると考えられます。

レアル安が進行している現状を受けて、これまでレアル安を容認してきたブラジル中央銀行は、8月6日(現地)にレアル買い介入に相当する通貨スワップのロール規模を拡大させることを発表し、為替政策の方針を修正しました。また一部の政策委員からは、現在のレアルの水準は割安との発言もみられました。実体経済面では、レアル安によって貿易収支に改善の兆しがみられはじめています。

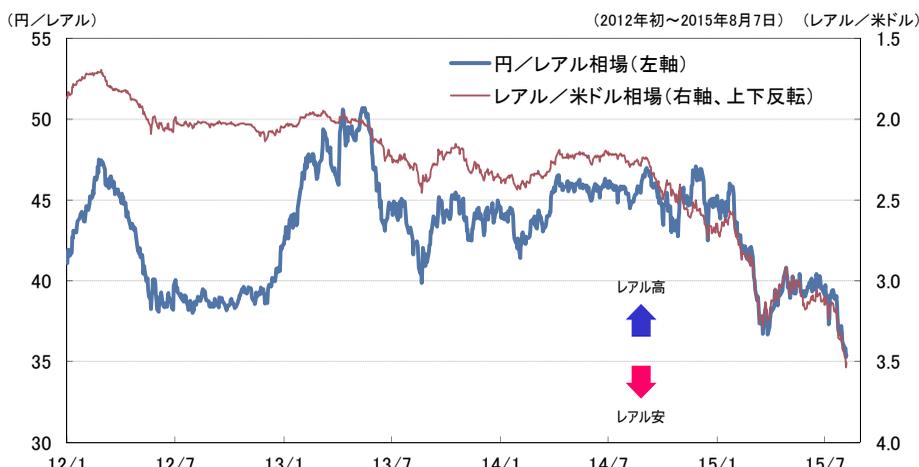
<今後の見通し>

中央銀行はインフレを沈静化させるために高金利政策を採っており、今後しばらく継続するとみられます。また、政府はジョアキン・レビ財務相を中心に財政再建を進めており、歳出凍結や金融機関の利益に対する税率の引き上げなど具体的な財政再建法案を成立させ、一定の成果を挙げています。

「金融引き締め」と「財政緊縮」は短期的な経済成長を犠牲にしますが、中長期的にブラジルが発展するための基盤作りとして必要な政策であり、投資家の信認を得るための重要な取り組みと思われます。現在はファンダメンタルズ、格付け、政局の動向など、ブラジルの不透明要因が払拭されないため、短期的に市場は大きく変動する可能性があります。為替政策の修正はレアルの下落を下支えすると思われるほか、中長期的には現状の政策が実を結び、成長軌道に回帰することが期待されます。

以上

ブラジル・レアルの推移



(出所)ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>